

人文学部の
今を伝える

人文ニュース<アゴラ>

46巻1号
山形大学人文学部
2014.4.1

Agora

"AGORA"とは、ギリシャ語で"広場"という意味です。

人文ニュース 第46巻1号 <http://www-h.yamagata-u.ac.jp/agora/index.htm>

写真で教員の研究を
楽しく紹介するコーナー

ふぁんたすていっく!



▲写真A

右手で大きな石を投げようとしている人がいますね(写真A)。鎖帷子(くさりかたびら)を着用していますから、兵士でしょう。

この彫刻は、どこにあるのでしょうか。写真Bには建物の入り口が写っています。上に二人の人物像があって、向かって右側がこの像です。入り口の上に、石を投げ落とそうとする兵士の姿があるというわけですね。

この建物は、ドイツ、レーゲンスブルクの14世紀に建てられた旧市庁舎です。レーゲンスブルクは、ドナウ川に面し、ローマ時代の2世紀にできた古い都市です。中世には帝国自由都市となり、司教座聖堂(大聖堂)もある大都市でした。ドイツは第二次大戦でひどく破壊されたので、中世の町並みが残っている都市は珍しいのですが、レーゲンスブルクはまさしくそのような幸運な都市であり、世界遺産に指定されています。12世紀創設という世界最古の焼きソーセージ屋さんもありますよ。

中世の市庁舎玄関上部のこの像は何を物語っているのでしょうか。市庁舎が襲撃に遭うと想定しているということではないでしょうか。確かに、この市庁舎が建てられた14世紀には、外からの侵略、内からの職人組合の反乱、あるいはロミオとジュリエットの物語で分かるような、都市貴族同士の戦いがあつたりと、大変物騒だったのです。この像は、そのような危険な都市状況を雄弁に語ってくれます。つまり、この像は、現在では「美術」と呼ばれる人間の営為が、「美」を目指すというよりも、防御のためのものだったことを示しているのです。

そのためには、この像が本当の兵士に見えなくてはなりません。本当に兵士がいるように見えるからこそ、防御の役に立つのです。兵士の鎖帷子や下を見る視線のリアルさに注目してください。絵画や彫刻には、何か(誰か)を代用するという役割があつたわけですね。

とすると写真Cの若者たちは、現代の美術がそのような役割を失ってしまったことを象徴するといえないでしょうか。もはや現代人は、兵士像を兵士とは見ません。平気でその下に腰掛け、上から石が落ちてくる恐怖なんてみじんもないようです。

人間文化学科教授 元木幸一
(西洋美術史)文・撮影



▲写真B



▲写真C

山形大学人文学部
facebookページ
開設いたしました!
ぜひご覧ください。



特集 さあ、私たちの人文学部を語ろう！ ～学部長、学生と大いに語る～

この4月から人文学部長として2期目に入る北川忠明教授。今回は、北川ゼミ(政治理論)から巣立つ2名のゼミ生を迎え、ゼミ生のみが知る北川教授の素顔や人文学部のことなど、和やかな中にも熱く語ってもらいました。

三浦さん：ゼミではあまりお聞きしたことがないのですが、学部長とはどんなお仕事ですか？

北川学部長：この春から山形大学の職員になる三浦さんとしては、学部長ってどんな仕事だと思いますか？

三浦さん：そうですね…学部情報を外部に発信すること、とかでしょうか？

北川学部長：それも大事な仕事の一つですね。でも、何よりもまず、学部の教職員と協力して、入学してきた学生の皆さんを4年間教育し、支援し、社会に送り出すという学部の役割全体をみるという仕事です。あとは、先生方の研究推進のための条件整備、社会連携や国際交流の推進等々、仕事はいろいろです。毎日会議ですよ。

奥山さん：確かに会議が多いイメージはあります。



三浦さん

——奥山さんと三浦さんにとっては、学部長である以前にゼミの先生でもある北川先生ですが、ゼミでの北川先生はどんな先生ですか？

奥山さん：初めは、専門が政治ということもあって、堅いカクカクな先生(笑)というイメージだったのですが、実はおちゃめな面もあって…。

三浦さん：北川先生は沖縄料理の店がお気に入り、特に「蒸ししゃぶ」が大好き。ゼミの飲み会が沖縄料理店だととても嬉しそうで、その様子を見て私たち学生も「ほっこり」します。

——逆に、北川先生から見たゼミ生はどんな学生ですか？

北川学部長：みんな、素直で、真面目で、一生懸命。潜在能力の高い学生が多いと思います。三浦さんが吹奏楽、奥山君がボランティアサークルJCCの活動を頑張っているように、勉強だけでなく多方面で学生生活をエンジョイしている。羨ましいほどです。

奥山さん：なんか照れくさいですね。能力が「潜在」したままにならないように頑張ります。

——二人とも充実した大学生活を送ったようですが、人文学部に入る前に入った後で印象は変わりましたか？

奥山さん：高校はすぐ近くだったのですが、実際に山形大学のキャンパスに入ったのはセンター試験の時が初めてでした。第一印象は「やっぱり狭いな」。(一同爆笑)そこでギチギチな感じで勉強するのかと思っていました。でもいざ入学してみたら、カリキュラムの自由度が高く、のびのびした環境で自分のしたい勉強ができる。いい意味で印象が裏切られました。



三浦さん：私は高校時代にトワイライト講座に参加しました。その時はあまり大きくない教室に受講生がびっしり。こんな感じで真面目に勉強する人が集まるんだな～と。実際は、奥山君も言ったように、必修が少なく、自分の興味に合わせて授業が選べる。私は法経政策学科ですが、教職科目のほかに人間文化学科の授業も履修しました。それが意外に面白くて、コミュニティのことを研究してみようと思うきっかけにもなりました。そんなふうに、自分がやりたいこと、興味のあることに向かって進んでいける—そんな学部だと思います。

北川学部長：学生がそう感じてくれているのは嬉しいですね。さて、二人はこれから山形県職員と山形大学職員として仕事をしていくわけですが、抱負を聞かせてくれますか？

奥山さん：ゼミでは、ローカリズムという地元に目を向ける考え方を学びました。山形県職員になったら、地元をしっかり和根を張り、なおかつ視野が狭くなることのないように気を付けながら、いろいろな仕事に取り組みたい。社会に貢献できるような、でっかい人間になりたいです。

三浦さん：大学職員の仕事は多岐にわたると思います。地域に根ざした研究もあり、ナスカ研究のように世界に目を向けた研究もある。世界を見ながら地元も見られるという点が楽しそうだなと思います。

北川学部長：おお、これは頼もしい！奥山君は、これから山形県の行政の中心となる仕事をしてくれるでしょうし、三浦さんは、東北地方有数の総合大学である本学で、「地域に根ざし、世界を目指す」というスローガンを実践してくれるでしょう。二人を始め、全卒業生の活躍を期待したいと思います。



<参加者プロフィール>

北川忠明学部長：法経政策学科教授。平成24年4月より人文学部長。専門は政治理論。

三浦結衣さん：平成26年3月卒業。平成25年度山形大学職員採用試験(事務系)合格。北川ゼミでは貴重な女子学生だった。

奥山大倫さん：平成26年3月卒業。平成25年度山形県職員採用試験(行政)にトップの成績で合格。

何が面白いの？～社会文化システム研究科院生の研究紹介～

貧しい子供たちへの目—スペインの画家ムリーリョ

大学院社会文化システム研究科2年 園部 祥さん



ムリーリョ《若い果物売りたち》、1675-82年頃
ミュンヘン、アルテ・ピナコテーク

私は現在、17世紀のスペイン画家、バルトロメ・エステバン・ムリーリョについて研究をしています。ムリーリョと聞いて、どんな絵を描いたのか思い浮かぶ人はあまり多くないと思います。ムリーリョは、フェリペ4世の宮廷画家として有名なバラスケスと同じ時代の人です。彼は、バラスケスの生まれ故郷である、スペイン南部の都市、セビーリャで活躍しました。つまり彼は、バラスケスの後輩にあたります。

ムリーリョは数多くの宗教画を描きました。その中でも目立つのは、優しい聖母マリアと可愛い幼児キリストです。特に柔かく甘美なマリア像は、当時人気を博し、ムリーリョは「マリアの画家」とまで称されました。また、彼は「スペインのラファエロ」と呼ばれていたことでも知られています。

宗教画を主に描いたムリーリョですが、彼の作品は、当時の人々の暮らしを描いた「風俗画」も有名です。ムリーリョの風俗画は、彼が生きたセビーリャで暮らす子供たちを取り上げています。例えば、左の作品を見てください。可愛い2人の少女が描かれていますね。一人は果物籠を持ち、もう一人はお金を数えています。

この絵が描かれた当時、セビーリャは、飢饉や戦争、伝染病などで、孤児や貧者が街にあふれかえっていました。生きるために盗みを働くことが当たり前だった時代です。これを踏まえた上で、もう一度絵を観てみると、あることに気づきませんか。食べることもままならないはずのこの少女たちは、痩せているどころか、右の少女は柔らかな笑みを浮かべています。貧しい子供たちを柔らかいタッチで描くこの表現は、ムリーリョの殆どの絵画に共通しています。これは、貧しいからこそ強く生き抜く子供たちを、ムリーリョが慈愛の目で見ていたからだと言われています。

このように、描かれていることだけを見るのではなく、当時の社会的な状況や宗教観など、様々な側面から、絵画にこめられた人の思いを考えていくことがこの研究の魅力の1つです。修士論文では、ムリーリョの作品が都市の人々にどのように見られていたかを、明らかにしたいと思っています。

社会の抱える問題点に向き合う

大学院社会文化システム研究科2年 小野 仁さん

私は、現在、社会人学生として、山形大学大学院社会文化システム研究科にて、学んでいます。研究科には、現在25名(平成26年2月現在)が在籍しています。それぞれ社会システム専攻では、公共システム・企業システム・国際システムの3つの教育分野、また、文化システム専攻では、人間科学・思想歴史論・国際文化論の3つの教育分野にて、多様な研究テーマにそれぞれの院生が取り組んでいます。うち、2名が社会人学生(平成25年度)として、若い学研の徒と、一緒に励み、励まされております(特にIT系は手とり足とりアドバイスをいただいています)。

当然のことながら、そこは単に知識を得るだけの場ではありません。山形大学にての院生募集要項では、資格・要件を満たし、該当する者の選考になるわけですが、そこでは、文字として現れない自らの問題意識を持つ者が選ばれるのだらうと、研究室にいる仲間を見ていると確信出来るのです(それぞれの院生が高い志を持っています)。

私事ですが、私の研究テーマは「インクルーシブな社会を目指すための一考察(視覚障害者の投票権から考える)」(平成26年2月現在、修士論文としての題目としては確定していません)です。他の院生の方々も同様と推察していますが、日本の社会システム転換が求められている現在であるからこそ、専門的研究を行うことによって、社会の抱える問題を、自らのこととして向き合い、解決の糸口を求めているのです。私は、それらの問題が、政策(施策)



院生研究室にて仲間たちと(中央が筆者)

として具現化されるよう追求しています。

研究科は、多彩な教員・職員から支えられ、豊富な授業から学びの場を選ぶことができ、実践的スキルを確実に身につけることができます。もちろん、院生同士も刺激し合い、助言も得ています。時には、「コンバ」と称し、友情を深めています。談論風発、そこには、社会人学生としての年齢差はありません。逆に、若い方々から指導いただくことが多々あり、人生の中では得難いものです。

AGORAをご覧いただいている皆様、山形大学大学院社会文化システム研究科への進路を考えてみませんか。より高い志を持ち、変化した社会へ柔軟に対応できるはず。また、社会人の方、あらためて特例として設けてある夜間授業時間を活用し、土曜日開講等を有効活用して、進学をしてみませんか。間違いなく、この混沌とした複雑な時代を、確信を持って生活行動していくことができます。

新任教員紹介

新任の教員から、皆さんへごあいさつを申し上げます。

人間文化学科

人間文化学科 **阿部 晃士** 准教授
(社会学)



昨年4月に着任した社会学担当の阿部晃士（あべこうじ）です。岩手県盛岡市から、高校時代までを過ごした山形に戻ってまいりました。

社会学というと広く漠然としたものとイメージされる方も多いと思いますが、私自身の専門は計量社会学・社会意識論です。統計的な調査・分析手法を使って、人びとの意識を手がかりに社会現象のメカニズムを分析しています。調査研究の題材は教育、環境問題、そしてここ数年は震災からの復興と一見ばらばらのようですが、その背後にある「社会の公平さ」の問題に取り組んでいるつもりです。

久しぶりに地元に生活してみると、忘れていた山形らしさに出会いうれしくなることもたくさんありますが、変わっていく街並みに戸惑うこともあります。さまざまな地域で調査をしてきましたが、実はこれまで、山形をフィールドにした研究には取り組んだことがありません。いま、そしてこれからの山形のために求められることは何かを考えながら、教育・研究に取り組んでいきます。

なお、山形大学には、もうお一人「あべこうじ」先生がいらっしゃいます。フランス文学・表象文化論の阿部宏慈先生です。研究室のドアを開けて「あれ？」と不思議な顔をしたり、質問を始めてから話がかみ合わずに気づく学生もいるようです。大学にお電話でご連絡くださる場合は「社会学のあべこうじ」、郵便やfaxの宛名は漢字でお送りください。どうぞよろしくお願いいたします。

人間文化学科 **小泉 有紀子** 准教授
(心理言語学・英語学)



2013年4月より人文学部の一員となりました、小泉有紀子です。どうぞよろしくお願いいたします。

専門分野は心理言語学で、主に英語の文理解について研究しています。ことば(文章)を読んだり聞いたりした時、私たちはその構造や意味を即座に解釈し、理解することができますが、そのメカニズムはどのようなもので、それは言語により違いがあるのかという問いに興味を持っています。例えば英語で John said Mike called yesterday という文を聞いたとすると、マイクが電話してきたのが昨日なのでしょうか。それともそのことをジョンが報告したのが昨日なのでしょうか。日常のコミュニケーションでは、文の構造は2通り可能でも、イントネーションや文脈の情報を使って私たちはほぼ誤解なく相手の言うことを理解できますが、それはなぜなのかを解明することを目指して研究しています。

私は実は山形大学にはもう5年になります。基盤教育院で4年間、1年生の英語教育を担当していました。もともと英語や英語圏文化が大好きで、英国と米国両方に留学経験がありますので、その時の経験を活かしてよりよい授業を目指すべく取り組んできました。人文学部でも、グローバル文化学コースで、英語力をアップさせたい、留学をしたい学生さんのお手伝いができればと考えています。

英語がわかるからこそ広がる世界があります。英語が好きで深めたい、という人も、英語は必要だから、という人も、楽しみながら一緒に頑張りましょう!

人間文化学科 **許 時嘉** 講師
(比較文化論・中国語)



去年2月に赴任前の引っ越しの準備のために来たときのことだ。高速バスの居眠りの中で仙台からのトンネルを通りぬけ、目が覚めると真っ白な雪の世界が待ち受けていた。舞台は違うが、「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」という川端康成の名句を思わず心に浮かべた。その美しい光景は亜熱帯の台湾出身の私にとって今でも忘れられない。そして、この真っ白な世界はこれからわたしの新天地なのだと実感した。

あれから1年余り経った。はじめての山形ではじめての教職、振り返ってみると勉強に明け暮れる日々を送ってきた。東アジア比較文化史(19～20世紀の日本・中国・台湾の比較研究)が専門である関係で、今や教壇に立つ側にいるとはいえ、自分と全く文化背景の違う日本人学生たちの素朴な質問から新しい刺激を得たことは何度もあった。「教学相長ず」という感動を日々味わってきた。

研究面では、博士論文以来の研究方向を踏まえて、漢字文化圏の「近代化」(近代西洋による近代化の衝撃や植民地経営の文明化の影響)における前近代的な社会制度、文化風習、倫理観の変容を研究対象としてきた。現在着目しているのは、東アジアで共有された前近代の「知」の一端を代表する漢詩文の素養とその文化的営為が、西洋近代主義と日本国家主義のせめぎあいの中で如何に変形、再生、逸脱していったのか、という問題。また、授業関係で近現代中国語圏の歌謡、映画、小説など大衆文化の形成及びそれに伴う社会意識の受容・変容についても注目している。これからも「教学相長ず」の教員生活を楽しんで過ごしたい。

人間文化学科 **松本 雄一** 准教授
(文化人類学・考古学)



昨年4月より、山形大学に赴任いたしました松本雄一です。

ここ十年ほどは、日本とアメリカ、ペルーを10回以上の引っ越しを重ねながら行ったり来たりしていました。山形に腰を据え、この落ち着いた環境で教育と研究に打ち込めることをいまだに夢のように感じています。

私は学部時代から一貫して、アンデスの考古学を文明の形成過程という視点から研究してきました。この点でも山形大学人文学部は非常に恵まれており、ペルーにナスカ研究の拠点として世界でも類を見ない研究所を有しています。この研究所は海外からも注目を集めており、国際的な研究の最前線といっても過言ではありません。私自身も、今後研究所での活動を通じて研究の最先端を授業にも反映させていきたいと考えています。

古代社会を研究することは、「なぜ人類は文明と呼ばれるような複雑化した社会を形成したのか」という我々自身も関わる問いと、「われわれが生きる社会とは大きく異なる社会を理解するにはどうすればよいだろうか」という他者理解に関する問いの両方を扱う人類学的な営みであると考えています。学生のみならずには、自分とは時間的にも空間的にも遠く離れた社会について知ること、自分の考えを相対化して異文化を理解する視点を学んでほしいと思います。

法経政策学科

法経政策学科 **川村 一義** 講師
(公共政策学・政治過程論)



こちらへ赴任する前は仙台におり、山形などすぐ隣という感覚で昨年4月に参ったのですが、花見の季節に雪が降ったのには面喰いしました。こちらで初めての冬を越すにあたり、身もクルマも重装備で待ち構えておりましたが、仙台でもよくある降雪量だったので、少々拍子抜けしております。と思ったら、2月にドカ雪が…

昨年の前期は授業が全くなく(見ず知らずの新任教員にゼミ生が来るはずもなく)、同期の先生方から縷々「ご批判」を頂戴しましたが、後期からは週2回の公共政策学を担当しております。最初は肩の力を抜いて臨んだのですが、月曜の1コマ目から始まるハードな時間割にもかかわらず出席率が高く、居眠りもほとんどなく、おまけに眼差しが真剣なので、どうにも肩に力が入ってしまいます。それゆえ、昨年10月の台風襲来時は、教員の模範を示そうと7時前に出勤したのですが、全学休講で見事「空振り」に終わりました。

赴任時は(こう見えても)最年少教員で、何かとネタに使い、大目に見てほしい時の諷い文句にもしておりましたが、尻無濱先生と柴田先生が赴任され、わずか8ヶ月で中止に追い込まれました。現在は、よく事情をのみみめないまま、ある講座の運営を順次引き継ぎ、新年度からはゼミに加えて政治過程論の講義も担当致します。新入気分を一掃し、とは言いつつ多少のことは大目に見てもらいながら頑張っておりま

法経政策学科 **尻無濱 芳崇** 講師
(管理会計)



昨年11月に本学人文学部、法経政策学科に着任しました。学部ではおもに管理会計と会計学を担当します。私は出身が鹿児島県なので、山形の寒さ、雪の多さには驚きました。

私の専門は管理会計およびマネジメント・コントロール論で、特に非営利組織を研究対象としています。「非営利組織に会計?」と驚かれる方もいるかもしれませんが、会計は時代や国を越えて、企業だけでなく様々な組織を対象に管理・統治の道具として利用されてきた歴史があります。古くはエジプトやローマ帝国で統治のために利用されていたことがわかっていますし、最近の研究では16世紀から17世紀にかけてイエズス会でも教区の管理、会員の人的資源管理のために会計が利用されていたことが明らかにされています。

現代でも会計は様々な組織に浸透しています。ほとんどの組織で予算が存在し、それに基づいて管理が行われ、対外的には財務報告が行われています(もちろん山形大学でも)。会計学を勉強することで、組織の活動とその結果を理解することができるようになり、普段別の仕事をしている人とのコミュニケーションが可能になり、意思決定や人をコントロールする手法を学ぶこともできます。「会計はビジネスの言語」と呼ばれる所以です。学部では会計学を学ぶ楽しさをひとりでも多くの学生に伝えていきたいと考えています。

法経政策学科 **柴田 聡** 講師
(経営学)



福岡で生まれ、高校までそこで育ち、仙台にて大学・大学院と12年ほど研究を続けておりました。2014年1月より本学部法経政策学科に着任することになりました。経営学ならびに経営組織論の授業を担当することになっております。

講義やゼミを持つことは初めてで緊張していますが、若い学生と接する新生活には希望と不安を感じております。教職員の方々が温かく迎えてくれたことで、仕事にも生活にも徐々に慣れているところです。

私は経営戦略論を専門としています。経営戦略は組織が持続的に成果を生むためにどのような企業行動を行うべきかを解明する学問です。もっと細かい話をすると、経営戦略の中でも特に組織能力の評価を研究の対象にして研究しています。

経営学の中でも経営戦略論は比較的若い学問分野で、隣接する経済学、心理学、社会学などの基礎となる学問領域で得られた知見をベースに統計学や文化人類学などの手法を用いて検証していく学際性の高い分野になっています。これは、悪く言えば未完成ですが、良く言えば自由な分野であり自由な発想が許される面白い分野でも有ります。

最後に、学生のみなさんに経営学に対する興味を持ってもらい新しい知識を吸収できるよう、私自身も成長の努力を続けていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

法経政策学科 **山本 匡毅** 准教授
(地域政策論)



2013年4月に人文学部法経政策学科に着任いたしました山本匡毅(やまもととまさき)と申します。神奈川県出身で、横浜市に30年間住んでおりました。その後、自治体シンクタンクや経済産業省の外郭団体に勤務したため、山形に来るまでの7年間に神戸、福岡、東京に住んでおりました。地方都市での生活は初めてですので不安もありましたが、今では楽しんでおります。

私の専門は地域政策論で、特に地域(自治体、NPO等)の立場からの地域再生について研究しています。シンクタンクの勤務時の研究では、都市の競争力強化、買い物・ガソリンスタンド弱者問題、市街化調整区域問題、機械工業振興などを地域の視点で扱ってきました。いずれの研究にしても、共通のフレームワークの下で研究を進めています。すなわち地域生活の維持に必要な問題の解決による持続的な地域づくりと、地域経済を支える雇用を生み出す産業をいかに振興して安心して暮らせる地域づくりを進めるかという二つの視点を両輪にしたものです。地域では生活空間と産業空間が交錯しており、その両面での再生が必要になっています。

東北地方は、人口減少が急速に進む課題先進地であると言われていいます。換言すれば、地域政策立案に必要な参考事例がないことも多くなってきます。地域の独自の発想で地域問題に取り組みなければならぬ状況の中で、微力ではありますが、学生とともに地域再生のお手伝いができればと考えております。

平成25年度 卒業生進路状況

平成25年2月28日現在

学 科 名		卒業 予定者数	進学 予定者数	その他	就職希望 者数(A)	就職内定者内訳				就職率 B／A
						企 業	公務員	教 員	計(B)	
人間文化学科	男	39	1	9	29	13	9	3	25	86.2%
	女	93	2	10	81	52	15	2	69	85.2%
	小計	132	3	19	110	65	24	5	94	85.5%
法経政策学科	男	116	3	10	103	48	45	0	93	90.3%
	女	98	4	2	92	57	25	0	82	89.1%
	小計	214	7	12	195	105	70	0	175	89.7%
合 計	男	155	4	19	132	61	54	3	118	89.4%
	女	191	6	12	173	109	40	2	151	87.3%
	小計	346	10	31	305	170	94	5	269	88.2%

平成25年度卒業生就職・進学一覧

業種／就職先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
建設業	1	0	4	3
アサヒアレックス東日本	1			1
オアイアート・K			1	
協和ボーリング			1	
ジェット				1
タマホー				1
一条工務店東京本社			1	
裕幸計装			1	
製造業	3	7	2	7
TPR工業		1		
アイリスオーヤマ		1		
エキタ・アダマン		1		
伊藤園			1	
かわでん				1
サマンサタバサグループ				1
シベール		1		
トーイン				1
ニクニ	1			
にしむら		1		
ハitechシステム				1
ハンナフーズ東北			1	
ファウンテック				1
モガミフーズ		1		
山本製作所				1
リオンナ	1			
山形航空電子				1
日立アロカメディカル	1			
六花亭製菓		1		
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0	1	0
東北電力			1	
情報通信業	1	4	5	2
NDソフトウェ		1		
TISE東北		1		
TKC				1
共栄システムズ			1	
ステック		1		
スバルシステムサービス				1
ソフトバンクグループ			1	
ビー・アイ・スクエ	1			
やまがたシイエフエ		1		
山形新聞社			1	
NTT東日本			1	
富士通エフ・アイ・ビー			1	
運輸業・郵便業	0	1	3	5
三ツ輪			1	
日本郵便				1
ニヤクコーポレーション			1	

業種／就職先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
東日本旅客鉄道(JR東日本)			1	2
三ツ星運輸				1
第一貨物				1
東日本高速道路(NEXCO東日本)		1		
卸売業・小売業	3	14	6	5
アイ・イーグループ			1	
デンコードー				1
カワチ薬品	1			
グッドエデュケーション		1		
グラントマト		1		
コスモテレコム		1		
コネクシオ			1	
サームス		1		
スズキ自動車販売福島		1		
セブンイレブン		1		
タケシヨ				1
ツルハ		1		
トヨタ部品宮城共販			1	
ブリモ・ジャパ		1		
ホーマック		1		
マックスバリュ東北	1			
三鈴				1
山形三菱自動車販売				1
ヤンマー農機販売			1	
キセキ東北			1	
恒和薬品		1		
山形いすゞ自動車		1		
青木商店		1		
仙台コカ・コーラボトリング			1	
渡部採取場		1		
八文採字屋	1			
卑弥呼		1		
金融業・保険業	1	11	18	21
きらやか銀行		1		2
七十七銀行		1	4	3
仙台銀行				1
山形銀行			4	2
りそな銀行/埼玉りそな銀行				1
横浜銀行			1	
秋田銀行			1	
青森銀行	1	1		
荘内銀行			1	1
大東銀行		1		
第四銀行			1	
北日本銀行				1
大和証券			1	2
新潟県信用組合		1		

業種／就職先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
商工組合中央金庫			1	
東北労働金庫			1	
農林中央金庫		1		
あいおいニッセイ同和損害保険				2
かんぽ生命保険				1
東京海上日動火災保険				2
日新火災海上保険				1
住友生命保険		1		
損害保険ジャパン		2		
朝日生命保険			1	
日本生命保険		1		1
山形生命証券			1	
八十二証券		1		
野村証券			1	1
不動産業・物品賃貸業	0	1	1	1
ジェイ・エス・ビー		1		
マーケットエンタープライズ			1	
レンテック大敬				1
学術研究・専門・技術サービス業	0	1	1	1
ベストファーム		1		
マクフロミ				1
税理士法人あさひ会計			1	
生活関連サービス業・広告代理・娯楽業	2	3	3	2
ブレイン		1		1
JTB東北	1			
アルファクラ	1			
エイエイピー			1	
こころネットグループ		1	1	
スカイバレスアソシエイツ				1
太平洋クラブ			1	
星野リゾート裏磐梯ホテル		1		
教育・学習支援業	0	1	3	2
国立大学法人東北大学				1
国立大学法人山形大学				1
公立大学法人秋田県立大学		1		
仙台進学プラザ			1	
アイデアグループ(明光義塾)			1	
英智学館			1	
医療・福祉・社会保険業	0	7	0	6
石巻赤十字病院				1
石巻デンタルクリニック				1
宮城県市町村職員共済組合				1
メディカル・ケア・サービス				1
横浜南共済病院		1		
宮城県国民健康保険団体連合会				1
山形済生病院		2		
日本海総合病院		1		
日本年金機構		2		1
福島県立医科大学		1		
複合サービス業	0	1	1	2
秋田県土地改良事業団体連合会				1
石巻商工会議所			1	
みやぎ生活協同組合				1
置賜農業共済組合		1		
サービス業(他に分類されないもの)	2	1	0	0
ANA成田エアポートサービス		1		
ラ・ディセ(モデル事務所)	1			
宮城県信用保証協会	1			
国営公務員	4	3	10	6
会計検査院			1	
海上自衛隊			1	
刑務官			1	
航空自衛隊			1	
仙台国税局	1		2	2
仙台地方検察庁			1	1
仙台法務局			1	
東京地方裁判所				1
東北地方財務局			1	1
盛岡地方検察庁			1	

業種／就職先・進学先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
労働基準監督官				1
航空管制官	1			
国土交通省東北地方整備局		1		
裁判所事務官		1		
山形労働局		1		
陸上自衛隊	2			
地方公務員	5	12	35	19
秋田県職員				2
岩手県職員		1		1
栃木県職員			1	
新潟県職員			1	
福島県職員			2	
山形県職員	1		6	2
茨城県職員		1		
宮城県職員		1		
秋田市役所				1
旭川市役所				1
大館市役所			1	
鹿沼市役所			1	
河北町役場				1
上山市役所				1
気仙沼市役所			1	
寒河江市役所			1	
酒田市役所			1	
白河市役所				1
新庄市役所			2	
仙台市役所			3	2
鶴岡市役所			1	
天童市役所				1
名取市役所				1
にかほ市役所				1
八戸市役所				1
東根市役所		1	2	
むつ市役所			1	
山形市役所		3	3	1
一関市役所	1			
釜石市役所	1			
十和田市役所		1		
新潟県市役所		1		
新潟川村役場			1	
山辺町役場	1			
大和町役場		1		
仙台市消防				2
仙南地域広域行政事務組合消防本部	1			
宮城県警察		1	3	
山形県警察		1		1
千葉県警察			2	1
教員	3	2	0	0
学校法人海陽学園	1			
学校法人仙台育英学園		1		
山形県中学校教員	2	1		
進学	1	2	3	4
国際教養大学大学院			1	
北海道大学大学院経済学研究科			1	
メリーランド大学マネジメントコース(三沢基地内)				1
山形大学社会文化システム研究科		1		2
宮城教育大学大学院	1			
大東文化大学大学院法学研究科		1		
東北大学法科大学院			1	
東北大学公共政策大学院				1

これらの数値は2月28日現在のものです。
データは随時更新しておりますので、山形大学キャリアサポートセンター
ホームページ内の進路状況のページをご覧ください。

学びの広場

人文学部では、市民のみならずにもご参加いただける講演会など様々な活動を行っています。掲載している内容は多様な活動の一部です。興味を持った方はぜひ人文学部ホームページまたはfacebookページをご覧ください。

<公開講座の予定>

◇前期公開講座

人間文化学科

グローバル時代への挑戦～等身大の留学体験～

日程／平成26年6月9日～23日(月・木)

山形大学では、平成25年度から実践教育プログラム「グローバル・スタディーズ」を開講しました。このプログラムでは、海外留学を通して異文化・社会の中で活躍できる人材育成を目指しています。

人間文化学科では、これに合わせてカリキュラムを見直し、「グローバル文化学」など5コースに改編しました。今年からいよいよ始まる新カリキュラムの専門教育は、外国大学への長期留学の経験を持つ多くの教員が担います。

この講座では、グローバル時代に先駆けて果敢に留学した新進気鋭の講師陣が、等身大の留学体験や興味深い異文化体験について語ります。21世紀をより豊かに生きていくために、教育と研究の新たなカタチについてともに考えてみましょう。



昨年度の様子

◇後期公開講座

法経政策学科

グローバル世界と日本はどうつきあうか

日程／平成26年9・10月を予定

「グローバル化」と言うと、TPP交渉など、その扱いによっては、私達の生活に悪影響を及ぼしかねないマイナスのイメージが付きまといますが、人的に依存しあう現代世界で暮らす私達にとっては、正面から向かい合わなければならない問題です。また私達は「グローバル化」の反作用として、日本の独自の価値や制度を見失わずに残してゆく必要性も感じるでしょうが、それはえてして「ナショナリズム」を喚起しがちで、紛争の火種ともなりかねません。このような情勢の中で、日本は世界とどのようにつきあって行くべきなのでしょう。

本講座では、「グローバル化」と「ナショナリズム」をキーワードにして、人文学部法経政策学科の教員を中心に、それぞれの専門の立場から、まずは、各分野におけるこれらをめぐる論点の所在を明らかにし、一緒に考えていきたいと思っています。



昨年度の様子

ナスカだより

このたび山形大学人文学部は、「広く学内外からの寄附を募り、人文学部のナスカプロジェクトにおける教育研究支援、人文学部附属ナスカ研究所の施設設備等の環境改善の支援」のために「ナスカ基金」を設けました。

2012年10月30日にペルー共和国ナスカ市に山形大学人文学部附属ナスカ研究所を開所して以来、ナスカプロジェクトは、段々と発展しています。そして、本プロジェクトが山形新聞社・山形放送の2013年8大事業に採択されたことにより、新聞報道やテレビ放送を通じてまたシンポジウム等を通して、ナスカ地上絵研究の現在の姿は広く市民の皆様を知っていただいているところです。その結果、山形大学からの支援だけでなく、企業・市民の皆様から御寄附をいただく機会も増えてまいりました。これは、ナスカ研究プロジェクトの学術的・社会的価値を認めていただいたことの証である

「ナスカ基金」を開設しました!



「ナスカ基金」に関する申合せ)及び「ナスカ基金」申込書)は人文学部ホームページからダウンロードできます。

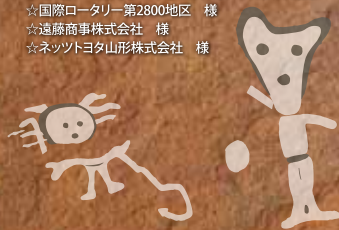
「ナスカ基金」への寄附者のご芳名(平成26年3月1日現在)

- ☆国際ロータリー第2800地区 様
- ☆達磨商事株式会社 様
- ☆ネットヨタ山形株式会社 様

と、まことにありがたく存しております。

どうか世界遺産であるナスカ地上絵の価値をさらに多くの皆様を知っていただき、人文学部ナスカ研究所をさらに発展させるため、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

山形大学人文学部附属ナスカ研究所長 北川 忠明



<人文ニュース>

2名の大学院生が平成25年度「ティーデマン・ふすま賞」を受賞しました!

社会文化システム研究科の園部祥さんと高橋望さんが、ふすま同窓会が主宰する平成25年度「ティーデマン・ふすま賞」を受賞しました(理工学研究科の五十公野裕也さんも受賞)。

受賞論文のテーマは園部さんが「17世紀スペインにおける《無原罪の御宿り》図像の考察ームリーリョ作サン

タ・マリア・ブランカ教会装飾を中心にー」、高橋さんが「鎌倉幕府將軍権力に関する一考察ー鎌倉期武家行列に注目してー」。

授賞式は、平成25年10月19日に長沼龍平ふすま同窓会長、結城章夫山形大学長、北川学部長等が出席して理学部棟で行われました。



前列右から、北川学部長、結城学長、園部さん、高橋さん、五十公野さん、長沼会長

人文ニュース 第46巻1号

○発行／山形大学人文学部 ○編集／人文学部広報委員会 ○発行日／平成26年4月1日
〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 電話023-628-4203(人文学部事務局)
http://www-h.yamagata-u.ac.jp/agora/index.htm E-mail: jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

※本学部の最新情報については、ホームページをご覧ください。http://www-h.yamagata-u.ac.jp
※昨年度で退職・転出した教職員、今年度の新任教職員のご挨拶は順次ホームページに掲載する予定です。

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。